

軽合金製ディスクホイール試験

1. 総則

軽合金製ディスクホイール試験の実施にあたっては、「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」（平成14年国土交通省告示第619号）別添「軽合金製ディスクホイールの技術基準」の規定及び本規定によるものとする。

2. 試験条件

(1) 乗用車用

技術基準2.3 衝撃試験における衝撃を加える位置は、貫通き裂、リムとディスクの分離、空気漏れが発生するおそれのある位置とする。

(2) 二輪自動車用

技術基準2.3 衝撃試験における衝撃を加える位置は、き裂、変形、空気漏れ等が発生するおそれの最も多い位置とする。

(3) トラック及びバス用

技術基準2.3 衝撃試験における衝撃を加える位置は、き裂、変形、空気漏れ等が発生するおそれの最も多い位置とする。

3. 測定及び観察項目

この試験で測定及び観察する項目は、次のとおりとする。

3.1 回転曲げ疲労試験

(1) 乗用車用

- ① 技術基準2.1.1に定める曲げモーメント
- ② 技術基準2.1.2.2に定める回転数
- ③ 試験後のディスクホイールのき裂、変形状況（以下「試験後のディスクホイールの損傷等の状況」という。）
- ④ 試験後のディスクホイールの締付ナット又はボルトのゆるみ状況（以下「試験後のディスクホイールの締付部等のゆるみ状況」という。）

(2) 二輪自動車用

- ① 技術基準2.1.1に定める曲げモーメント
- ② 技術基準2.1.2(2)に定める回転数
- ③ 試験後のディスクホイールのき裂、変形及び結合部等のゆるみ状況（以下「試験後のディスクホイールの損傷等の状況（二輪自動車）」という。）

(3) トラック及びバス用

- ① 技術基準2.1.1に定める曲げモーメント
- ② 技術基準2.1.2(2)に定める回転数
- ③ 試験後のディスクホイールの損傷等の状況
- ④ 試験後のディスクホイールの締付部等のゆるみ状況

3.2 半径方向負荷耐久試験

(1) 乗用車用

- ① 技術基準2.2.1に定める半径方向の負荷

- ②技術基準 2.2.2.2 に定める回転数
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況
- ④試験後のディスクホイールの締付部等のゆるみ状況

(2) 二輪自動車用

- ①技術基準 2.2.1 に定める半径方向の負荷
- ②技術基準 2.2.2(2) に定める回転数
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況 (二輪自動車)

(3)トラック及びバス用

- ①技術基準 2.2.1 に定める半径方向の負荷
- ②技術基準 2.2.2(2) に定める回転数
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況
- ④試験後のディスクホイールの締付部等のゆるみ状況

3.3 衝撃試験

(1) 乗用車用

- ①技術基準 2.3.1 に定めるおもりの質量
- ②技術基準 2.3.2.2 に定めるタイヤサイズ及び空気圧
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況
- ④内圧低下の有無。内圧低下があった場合は、1分後における内圧の低下率

(2) 二輪自動車用

- ①技術基準 2.3.1 に定める錘体総重量
- ②技術基準 2.3.2(2) に定める空気圧
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況 (二輪自動車)
- ④空気漏れの有無。空気漏れがあった場合は、30秒後における内圧の低下率

(3)トラック及びバス用

- ①技術基準 2.3.1 に定める落下高さ
- ②技術基準 2.3.2(2) に定めるタイヤサイズ及び空気圧
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況
- ④空気漏れの有無。空気漏れがあった場合は、30秒後における内圧の低下率

3.4 振り試験

(1) 二輪自動車用

- ①技術基準 2.4.1 に定める振りモーメント
- ②技術基準 2.4.2(2) に定める回数
- ③試験後のディスクホイールの損傷等の状況 (二輪自動車)

4. 試験記録及び成績

試験記録及び成績は、該当する付表の様式に記入する。

4.1 当該試験時において該当しない箇所には斜線を引くこと。

4.2 記入欄は、順序配列を変えずに5試験対象を限度に追加するものとする。

なお、5試験対象を超える場合にあっては、上記内容を考慮した新たな付表を添付するものとする。

5. その他

次の書面を添付する。

技術基準 4.1 に定める表示に関する図面等

付表 1

軽合金製ディスクホイールの試験記録及び成績（乗用車用）

試験期日 年 月 日 試験場所 試験担当者

◎試験ディスクホイール

サイズ及び（ ）セット 装着車両

主成分 車名・型式

形状寸法(JISD4218 等への適否) 静止時車輪反力の最大値 [kN]

マグネシウム合金製ディスクホイールの防錆処理の有無及び方法

装着可能なタイヤの諸元

| タイヤサイズ | 静的負荷半径 [mm] | 総幅 [mm] | 最大負荷能力に対する荷重 [kN] |
|--------|-------------|---------|-------------------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

◎試験成績

○回転曲げ疲労試験

| 曲げモーメント (kN・m) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 締付部等のゆるみ状況 |
|----------------|-----|-------|-----------------|------------|
| 計算値 | 試験時 | | | |
| | | | | |

○半径方向負荷耐久試験

| タイヤサイズ | 試験前空気圧 (kPa) | 半径方向負荷 (kN) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 締付部等のゆるみ状況 |
|--------|--------------|-------------|-----|-------|-----------------|------------|
| | | 計算値 | 試験時 | | | |
| | | | | | | |

○衝撃試験

| タイヤサイズ | 試験前空気圧 (kPa) | 総幅 (mm) | おもりの質量 (kg) | 衝撃位置 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 内圧低下の有無 |
|--------|--------------|---------|-------------|------|-----------------|---------|
| | | | | | | |

注 1) 衝撃位置は、バルブ穴の位置を基点とし、時計方向の角度 (°) を記入する。

注 2) 内圧低下があった場合は、1 分後における内圧の低下率を () 内に記入する。

備考

付表 2

軽合金製ディスクホイールの試験記録及び成績 (二輪自動車用)

試験期日 年 月 日 試験場所 試験担当者

◎試験ディスクホイール

サイズ 装着車両
 主成分 車名・型式
 形状寸法 (JIS D 4218 等への適否) 静止時車輪反力の最大値 kN

マグネシウム合金製ディスクホイールの防錆処理の有無及び方法

装着可能なタイヤの諸元

| タイヤサイズ | 静荷重半径 (mm) | 設計最大荷重 (kN) |
|--------|------------|-------------|
| | | |
| | | |
| | | |

◎試験成績

○回転曲げ疲労試験

| 曲げモーメント (kN・m) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 |
|----------------|-----|-------|-----------------|
| 計算値 | 試験時 | | |
| | | | |

○半径方向負荷耐久試験

| タイヤサイズ | 試験前空気圧 (kPa) | 半径方向負荷 (kN) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 |
|--------|--------------|-------------|-----|-------|-----------------|
| | | 計算値 | 試験時 | | |
| | | | | | |

○衝撃試験

| タイヤサイズ | 試験前空気圧 (kPa) | 錘体総重量 (kg) | | 衝撃位置 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 空気漏れの有無 |
|--------|--------------|------------|-----|------|-----------------|---------|
| | | 計算値 | 試験時 | | | |
| | | | | | | |

○振り試験

| 振りモーメント (kN・m) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 |
|----------------|-----|-------|-----------------|
| 計算値 | 試験時 | | |
| | | | |

注 1) 衝撃位置は、バルブ穴の位置を基点とし、時計方向の角度 (°) を記入する。

注 2) 空気漏れがあつた場合は、30 秒後における内圧の低下率を () 内に記入する。

備考

付表 3

軽合金製ディスクホイールの試験記録及び成績（トラック及びバス用）

試験期日 年 月 日 試験場所 試験担当者

◎試験ディスクホイール

サイズ及び（ ）セット 装着車両

主成分 車名・型式

形状寸法（JIS D 4218 等への適否） 静止時車輪反力の最大値 kN

マグネシウム合金製ディスクホイールの防錆処理の有無及び方法

装着可能なタイヤの諸元

タイヤサイズ 静荷重半径 (mm) 総幅 (mm) 設計最大荷重 (kN)

◎試験成績

○回転曲げ疲労試験

| 曲げモーメント (kN・m) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 締付部等のゆるみ状況 |
|----------------|-----|-------|-----------------|------------|
| 計算値 | 試験時 | | | |
| | | | | |

○半径方向負荷耐久試験

| タイヤサイズ | 試験前空気圧 (kPa) | 半径方向負荷 (kN) | | 試験回転数 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 締付部等のゆるみ状況 |
|--------|--------------|-------------|-----|-------|-----------------|------------|
| | | 計算値 | 試験時 | | | |
| | | | | | | |

○衝撃試験

| タイヤサイズ | 試験前空気圧 (kPa) | 総幅 (mm) | 落下高さ (mm) | 衝撃位置 | ディスクホイールの損傷等の状況 | 空気漏れの有無 |
|--------|--------------|---------|-----------|------|-----------------|---------|
| | | | | | | |

注 1) 衝撃位置は、バルブ穴の位置を基点とし、時計方向の角度 (°) を記入する。

注 2) 空気漏れがあった場合は、30 秒後における内圧の低下率を () 内に記入する。

備考
